

世界かんがい施設遺産

みぬまだいようすい

見沼代用水

[埼玉県・行田市 他]

- 1728年、新田開発と水利利用改善のため、用水源であった「見沼溜井」を干拓し水田とし、代わりの水源を60km離れた利根川に求め、見沼代用水（見沼に代わる用水）を築造。
- 用水沿線に支線を分派し他の池沼も干拓し、新田・既存田合わせ受益15,000haの当時最大の用水が完成。
- 卓越した「紀州流」技術により、約80kmの水路と当時最大規模の「元坎」「伏越」「掛渡井」などをわずか6ヵ月で完成。
- 用水路を舟運に利用するため、河川との落差3mの対策として閘門式運河を築造。江戸と農村の広域物流システムを構築。

Minuma-Dai Irrigation System

江戸の繁栄を支えた先進的土木技術の結集

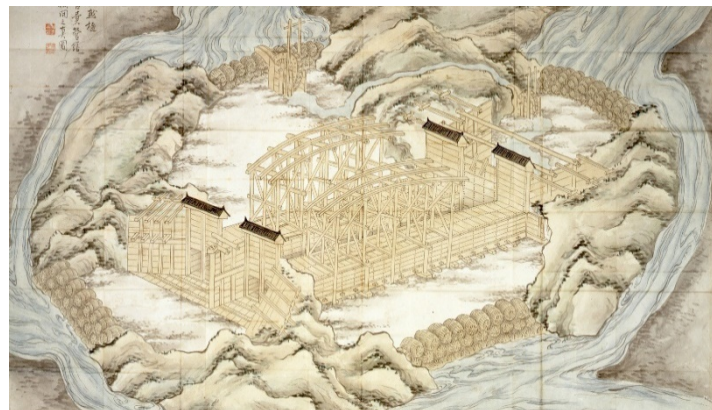
～我が国最大の農業用水の誕生～



見沼代用水元坎鳥瞰図



現在の見沼代用水（原形保全区間）



柴山伏越の施工図



閘門式運河の実演



豊富な水量を誇る見沼代用水

問い合わせ先 見沼代用水土地改良区 TEL. 0480-85-9100